

新潟県

63年

公民館月報

6月
第424号

特集 イベントを成功させよう

——青年団体育成のつぼどころ——

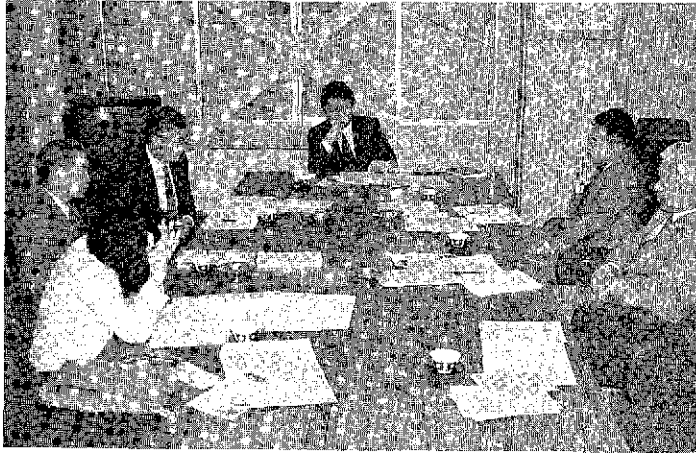


三輪晃勢 「菖蒲」

1980年制作 170.0×210.0cm 日本画

新潟県美術博物館蔵

三輪晃勢（1901～1983）は三島郡与板町出身。堂本印象に師事、京都に住み日展の顧問として活躍、日本芸術員会員。鮮やかな色彩と大胆な構成で独得な日本画を創造した。岩手県にある毛越寺に取材した作品。



第一回研修専門委員会開催

職員研修構想まとまる

学習要求のはあくを主題に

期日は十一月三十日・十二月一日

会場は長岡市中央公民館で

去る五月二十四日、新潟市中央公民館を会場に今年度第一回研修専門委員会が開催された。新たに委嘱をうけた

研修専門委員五氏の全員出席により、今年度を実施する「公民館職員研修」の基本構想が検討された。午前十一時から四時間にわたり、研修の本質論から実施計画に至るまで、極めて精力的に検討され、特色ある実施計画が策定された。

なお、策定にあたって特に留意された点は、①県社会教育課で実施する「社会教育主事等研修」のうち今年から初任者(経験年数一年未満の職員)を対象とした研修を加えることになったこと、とりわけ、「公民館事業計画の立案」など公民館職員を対象とした研修内容もあることから、競合を避けるための配慮をした。②昨年の研修の反省結果に基づき、会場・日程等にとりを持たせたことである。

次に研修内容の骨子を記す。

一、主テーマは「学習要求のはあく」
公民館職員が、住民の要求や必要に応じた事業をすすめるためには、多くの専門的な知識・技能が必要であることはいうまでもない。中でも学級・講座の開設に関するものが基本的で必須であることから、この点を特に重視し、昨年度と同様に「学習計画の立案の手順と方法」を

主題とし、このうち「学習要求のはあく」について重点的に研修する。

なお、受講申し込み時に、あらかじめ「学習要求のはあく」に関する実践レポートを提出することや、事前に予習をすすめて参加する方式については、昨年度の方法を踏襲することにした。

二、受講対象者

受講対象者は、経験年数一年以上公民館の事業に従事している職員とする。これは、県社会教育課の初任者研修の受講対象が経験年数一年未満となっていることに対応し、競合を避けたものである。

したがって、研修内容もまた当然のことながら、一年以上の実務経験に基づいたものになるであろう。

三、研修会場等について

研修の会場は長岡市中央公民館とし、宿泊施設は市町村職員共済組合長岡自治会館とすることにした。これは、受講者の集まりやすさを考慮したことと長岡市中央公民館の厚意によるものである。また、開催期日は十一月三十日・十二月一日の一泊二日に決定。

なお、昨年にならい、九月末には受講者を募る予定である。

研修専門委員に五氏を委嘱

新潟大学教育学部教授
新潟県教育委員会社会教育主事
柏崎市中央公民館指導員
元十日町市公民館長
新潟市鳥屋野地区公民館社教主事

吉川 弘殿
渋谷 孜殿
徳間 助夫殿
田村 達夫殿
伊田千代子殿

地域住民への思いやりと

あたたかいコミュニケーション

公民館
自治館

総合補償制度

加入受付中

取扱店 安田火災海上保険(株)新潟支店 TEL.(025)225-1812

関東甲信越静ブロック

公民館研究集会へのお誘い

第二十九回関東甲信越静公民館研究集会が来る九月七日(水)

八日(木)の二日間におたり、静岡県浜松市で開催される。

主題は「生涯学習を進めるための公民館のあり方」におき、今日の課題について、各地の研究・実践事例をもちより、お互

いが連帯と友情を深めつつ、公民館の諸問題を研究討議しようというもの。

研究・討議は十六の分科会(下表参照)に細分化されていますので、比較的少数で問題を深めることが期待される。なお第一分科会の発表・助言・司会は

十日までである。

本県の公民館関係者から大役を引き受けてもらうことになっている。

また、記念講演には、日本水連会長の古橋広之進氏の「スポーツの体験をとううして」が予定されている。

参加を希望するむきは、各市町村の中央の公民館に開催要項があるので、詳細を承知してほしいし、市町村公民館を経由して参加申し込みをしてほしい。なお申し込み切りは六月二十日までである。

辛 口

公運審は、公民館の事業の企画実施につき調査審議し、館長の諮問に必ずこたへるべきことになっている。

いる。諮問という言葉から受身的ニュアンスが出てくるのは、至極当り前にも思われるが、これではその職責を十分に果たしたことになる。



にはならないのではなからうか。

公民館が設置された戦後間もなかったころ多くの地域の関係者が多くなり、社会教育のセンターとして施設の不備な状況の中に

運審委員は積極的な発言と行動を

板垣 清

あつて事業の充実のために意欲的に活躍したあの気概は最近の運審の中にあらうか。

運審委員が各方面から選出されているという意味は、少なくとも

住氏の公民館に対する広い視野からの要望、要求を吸い上げ、事業等に反映させることに

あると思われる。四十一年の歴史によって形も整い、内容も充実して来たとはいえ、

運審委員は積極的な発言と行動を

板垣 清

日まぐるしく動く現代社会の情勢に対応していくためには、今こそ多くの人の創造性豊かな知恵と積極的な参加が期待される。

最近、地方行革の余

関東甲信越静公民館研究集会 分科会一覧

No	分科会名	討議内容	発表者	助言者	No	分科会名	討議内容	発表者	助言者
1	公民館の管理運営(都市)	○住民サービスの向上と管理運営 ○公民館の利用、使用料、開閉時間等の問題	東京	東京	9	高齢者の学習活動	○高齢者がかかえる課題と学習活動 ○高齢者の組織と役割	長野	長野
2	公民館の管理運営(町村)	○住民サービスの向上と管理運営 ○公民館の利用、使用料、開閉時間等の問題	茨城	茨城	10	家庭教育と公民館	○家庭や地域と公民館事業との結び付き ○家庭教育学級等の学習を高める方策	神奈川	神奈川
3	公民館運営審議会のあり方(都市)	○公運審の役割 ○公運審の活性化	静岡	静岡	11	体育レクリエーション活動	○体育レクリエーション活動や、健康のスポーツ指導と公民館 ○保健衛生の学習と公民館	山梨	山梨
4	公民館運営審議会のあり方(町村)	○公運審の役割 ○公運審の活性化	新潟	新潟	12	団体・グループの育成	○各種団体、グループの支援について ○リーダーの育成方策について	栃木	栃木
5	情報の収集と活用	○広報、広聴活動の成果と課題 ○資料収集や相談事業のあり方	埼玉	埼玉	13	地域づくりと公民館	○地域づくり、地域連帯、地域課題と公民館 ○地域文化の継承と公民館の役割	静岡	静岡
6	青少年の学習活動	○子どもと公民館事業の展開 ○青年への働きかけと学習活動	静岡	静岡	14	公民館と生涯学習	○生涯学習への公民館、社会教育の役割 ○地域住民への生涯学習への支援	静岡	静岡
7	婦人の学習活動	○婦人の学習活動のあり方 ○婦人の学習への参加や婦人団体等の連携	静岡	静岡	15	国際理解と公民館	○国際化時代への学習の進め方 ○人権問題について	静岡 埼玉	静岡
8	成人男子の学習活動	○成人男子の学習への参加 ○成人男子の学習と地域活動とのかかわり	群馬	群馬	16	期待される公民館像は	○社会法の改正や、行政機関と公民館のかかわり ○公民館職員のあり方	千葉	千葉

執筆者紹介
水原町教育委員会社教主事

見原健司氏

昭和五十五年四月以来水原町教育委員会社教主事として勤務。主として青年教育を担当。青年対象の講座等の企画立案、ならびに青年団体の育成に取り組む。氏自身が青年団出身であるだけに、青年の団体活動のつぼどころを心得、活性化に大いに力を発揮している。



見原氏

成功させよう

のつぼどころ

はじめに

市町村の活性化を図るうえで青年のエネルギーへの期待は昔も今も変わりはありません。しかし、今や、当の青年層の意識や行動は様変わりし、「社会に尽くす」という考えよりは、「好きなように暮らしたい」という志向のほうが強いと指摘されています。その原因は、社会的体験の稀薄さによるものだともいわれています。

このような青年たちに「社会へ目をむけさせること」が、社会的体験を得させること、が公民館の青年教育に対する要諦であろうと思えます。青年団体の活性化は重要な今日の意味を持っていると思えます。

しかし、県下の市町村では、いわゆる地域団体としての青年団は、殆ど崩壊してしまっているか、組織はあっても形骸化しているのが実態のようです。

そこで、青年団体の活性化のためのイベント活動のつぼどころを、わたくし流に書きました。

一、青年とイベント

青年の特性は、①行動的であること、②仲間と共にいる心情の強いこと、③好きなもの(共鳴するもの)には、とことんまでのめりこむ、といったひたむ

きさです。だから、イベントへの取り組みはさほど難かしくはありません。むしろ、学級や講座には参加したがいらない青年でもイベントなら積極的に参加するのが一般的な傾向でしょう。ですから、イベントをとおして、自分たち青年の仲間意識や団体意識を強めるとともに、地域社会へ目を向けさせ、地域への愛着度を深めていくことを狙いたいものです。

二、一つの実践

何はともあれ、わが水原町の青年団が一年半にわたって実践した一つのイベントを紹介しましょう。

わが水原町の青年団も、今から二年前までは団員の減少、事業のマンネリ化などで低迷を続けていました。僅か二〇人の細かい団体でした。その青年団が自からの活性化に向けてイベントに取り組みました。

最初に彼等が取り上げようとしたのは、青年団の存在を町民にアピールしようという考えから、「サザンオールスターズをよぼう」という提案でした。そのグルーブに当町出身の青年がおりコネを易やういからというまことに安易な発想からでした。でも、これには巨額な資金が必要なことと、若者だけに喜ばれ

る事業で、まちぐるみの運動にはならないことがわかって、この案は流れました。

次の案は、例年商工会でやっている演歌歌手による歌謡ショウが検討されたが、これも娯楽性のみが強く心に残るものが薄いとすることでこの案もボツになりました。そして、最終的に取りあげることになったのは、佐渡国「鼓童」(国際的に注目を



集めている芸能集団)に決まりました。これは、青年団自身のイベント活動としての目的から、町民にアピールするという意味から、確信を持ってのことからです。しかも、折衝の結果公演が一年三か月後になったという結果的には時間をかけて、じっくりと準備ができて好

結果をもたらしました。

青年団では、その後の日程や準備について何回も企画会議を重ねることができたこと、商工会青年部や社会教育団体、福祉団体などへの協力要請や根回し、全戸へのチラシの配布、時にはラジオに出演してのPRなどイベント実現に向けての活動が続きましたが、わりなく取り組むことができました。

したがって、青年団にとってこの一年三か月という準備期間こそが地域を知るうえで大事な学習の場となりました。

三、つぼどころ

(1) 仲間としての感覚で

公民館職員は団体への相談や指導に必ず役割を持っているのですが、指導意識をむきだしにしたのではうるさがるでしょうし、求めがあるまでは知らん顔では青年たちとの人間関係は密にはなりません。青年たちの仲間であり、親身になっての相談相手になることが大切です。そうでないと、怒意的な青年たちを動かす力にはならないと思います。

(2) 公民館職員は裏方

イベントの産声は青年団(体)があげるように仕向けます。ま



初任者講座 イベントを

青年団体育成

た、事業も青年団(体)が自主活動として主体的に取り組むように仕向けます。むしろ、行政主導が悪で住民主導が善だからなどと短絡した発想で言っているわけではありません。地域づくりへの問題提起や、そのための情報提供など行政や公民館のやることですが、イベントへの取り組みの主役は、青年たちです。公民館職員は裏方の仕事に徹すること。青年たちのプライドを尊重することが、青年団体を活性化させる早道です。

(3) 本末転倒しないように

実際仕事にかかる夢中になって、その事業を無事に終わらせることが目的になってしまいます。たとえば、人集めのみに狂奔して、参加人数の多寡のみが目的になったりします。特に金銭が絡むと、本末転倒しがちです。こういう進め方はかえって悪結果をもたらすことがあります。つまり、事業を成功させたあと、その安堵感や、充実感が次の事業への魅力をなくし、団体離れに拍車をかける結果になることもあります。これは何のためのイベントだったのか分かりません。公民館職員は、地域の人たちが青年団体の活動にどういった関心をもっていか、何を期待しているかなどの状況はあくすることが大切です。本末転倒しないように指導することが大切です。

(4) 団体の力量を知る

スタートの時点では楽しく準備にとりかかれて苦勞も苦勞ではないのですが、途中でプレッシャーがかかると、やる気をなくして苦勞が苦痛になります。苦痛が大きくなると次の活動へのフアイトをなくしてしまうので危険です。したがって、団体の力量を知ることが忘れてはなりません。

イベント成功への責任感や、地域の人々への青年団体の存在感が強まるほどフアイトの魂りとひたるのですが、反面では、

準備作業が過熱して次へのエネルギーが枯渇してしまうおそれも生じます。一発花火のようなイベントで終わらせず、次の行動のために余裕を残しておかねばなりません。

(5) イベントの後

一つの事業を終了すると、「ああー終わった」という気持ちで先にたち、あとはさようならという気持ちになりがちですが、もう一歩踏み込み、終わったあとの評価や事後活動が大切です。反省会と称する「飲み会」だけは発展的な意見や反省は期待できません。

むすび

青年団体の活動において、イベントは一発花火にすぎないもので、教育的成果はあまり期待できないというむきもありませんが、「地域の問題は何か?」「今度は何をやるのか?」に関心が向けられ、計画的に連続して展開していけば、個々のイベントは点であっても、やがて、線や面になっていくものと思えます。そのことが、地域活性化に向けての青年団(体)の力量として地域住民に認知されることになりましょう。むしろ、彼等を推進力にしましょう。そういう気持ちで私は、今年もまた青年団の相談相手になっています。

誰もが初めからベテラン公民館主事ではありません。多くの失敗を体験するなかで、青年団体を指導するつばどころを会得していくわけです。よって、貪欲に「見る、聞く」にこだわるなかで、力を磨いてください。異論反論大歓迎!

スタートの時点では楽しく準備にとりかかれて苦勞も苦勞ではないのですが、途中でプレッシャーがかかると、やる気をなくして苦勞が苦痛になります。苦痛が大きくなると次の活動へのフアイトをなくしてしまうので危険です。したがって、団体の力量を知ることが忘れてはなりません。

イベント成功への責任感や、地域の人々への青年団体の存在感が強まるほどフアイトの魂りとひたるのですが、反面では、

準備作業が過熱して次へのエネルギーが枯渇してしまうおそれも生じます。一発花火のようなイベントで終わらせず、次の行動のために余裕を残しておかねばなりません。

一つの事業を終了すると、「ああー終わった」という気持ちで先にたち、あとはさようならという気持ちになりがちですが、もう一歩踏み込み、終わったあとの評価や事後活動が大切です。反省会と称する「飲み会」だけは発展的な意見や反省は期待できません。

イベントの成果を確かめるには青年団体自身について、例えば、青年団体の全員がこのイベントへの責任を持ち一人一役主義で役割を担ったか、みんなで成功させるようにしたか、などの自己反省が必要ですが、町民の意見や感想も重要です。それも、町民(大人)の賞賛の言葉があると大きなプラスになります。子供っぽいようですが、良いことには良いという反応を示すことが青年団体に活力を与えることになり、次の地域づくりの先だつとして期待できます。

わが、水原町青年団のこのイベントは、町民に大きな反響を

公 民 館 探 訪 記

地域おこしの旗頭

日本一の「てまりの里」に

栃尾市公民館を訪ねて

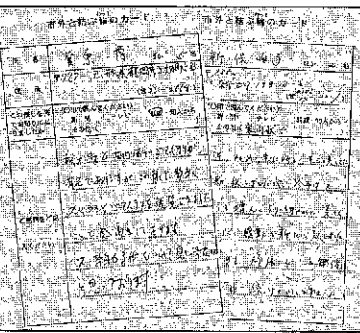
五月二日、栃尾市公民館は「手がかりてまり展」の参観者でこつたがえしていた。それも、市民だけでなく、県内県外から多数の人がやってきていた。

壁面に展示されている手まりの数々は丹念に編みあげられ、何時まで眺めていても飽きない美しさである。その素晴らしさに観覧者のため息が聞こえてくる。

公民館とてまりの会

これまでも、名児耶チハル嬢の作る美しい手がかりてまりに魅せられた市内の主婦たちが、ひとり・ふたりと嬢の技術を学んでいた。しかし、その主婦層も次第に高齢化し、技術保存のうえから問題があつた。そこで、

公民館では、伝統技術の保存と地域振興の一助になることを願って「てまり展」を実施するとともに、「手まりづくり教室」を開設することにした。昭和六十年五月のことである。最初は、てまりの美しさを知らせるためにと



「栃尾市手がかりてまり展」を開催することにしたものの、肝心のてまりがどれだけ集まるかが案じられたのだ。市内の各部落に呼び掛けて、てまり所有者から提出協力を求めたところ、予想以上の協力を得、展示会もまた思いがけない反響を呼んだ。市内外から多数の見学者を集め大成功を納めた。

この催しを機に市民各層からも熱い支持をえて、公民館では「てまりづくり教室」の開設、受講生を中心とした「てまりの会」の結成、などにより今日の隆盛をみているものである。今、栃尾市公民館では、通年

「手がかりてまり」の由来

「昔、紬を織る山里の女衆が絹の残り糸を利用して作ったのはじまりという、手がかりてまり」は、ムラの童たちの玩具として、あるいは、手まりのように丸々と育つようにと願いをこめて祖父母から愛しい孫のもとへ贈られた節句の祝い品としてムラムラの生活に欠くことのできない存在でした。

栃尾のわらべうたの中に

- てんまりあげて
- ひとついくらや
- 百二十五文
- 五文まけれや
- まけるはいやだ

品として人気を博しています。(昭三十八年市無形文化財に指定)
(栃尾市公民館資料より)

開設の「手まり教室」(毎月一回、午前十時～午後三時)、勤労婦人に対しては夜間の「てまり教室」によって技術指導をするほか、夏休みを利用して少女たちに「女の子のてまり教室」などが目玉事業として位置づけられている。

てまり祭り

公民館事業に自信と勇気を得た「てまりの会」は会員は九十人賛助会員二十人の合計百十人

すでにこのイベントは、口コミやマスコミを通じて県外にも広く知られるようになったが、これからも、栃尾で「てまり」を地域づくり・まちおこしの旗頭として、「日本一のてまりの里」づくりを夢に描いている。

情報 広場

地域に根ざした活動推進のために 『分館運営の手引き』 刊行

小千谷市公民館

地域に根ざした公民館の活動を進めるに当たり、分館の果たす役割はまことに大きいものがある。

小千谷市公民館ではこのことに着目して、このほど「分館運営の手引き」を刊行した。

もともと小千谷市公民館では他に二つの地区館と三十六の分館を擁し、これらの分館の機能をフルに發揮して、より一層の公民館活動の充実進展をはかるため、十年ほど前から分館役員の研修用に手書き資料を作成してきたものであるが、それに新資料を加えて集大成した手引きである。

分館の役割、本館との機能連

携、分館事業指針などから分館運営の実務に関する内容まで克明に記されている。したがって各分館の活動格差の是正や、分館相互の連携や共同事業、情報交換交流にも役立つように編集されており、貴重な手引きといえよう。

次にその一部を紹介しよう。

「地域づくり活動の展開」の項には、①地域づくりの概念の明確化と、小千谷市の実態に即した具体的事業の例示。②それらの事業を進めるための具体的な手順の説明。③公民館の役割(視点)について、が述べられている。

「分館事業の指針」の項には、

- ①地域連帯感の育成。
- ②団体・グループの育成。
- ③学習活動の推進について述べられている。

「分館役員の任務」の項には、①分館長の任務。②分館主事の任務。③地区推進員の任務、について。

「分館の庶務事務」の項には、①分館事務の概要、②分館長の命により行う事務、③分館役員の相互連絡に関する事、など分館として行わねばならない事務(庶務)を処理する内容にもふれている。

その他には、月報(分館事業報告)や年間事業計画書の記載について、記載例を示しての解説。講師謝礼基準や分館事業に関する講師謝礼の例示などもあ

る。さらに、資料として、分館内規(例)・地域共通課題と学習計画例(農村部)・関係行政・機関の施策、ほか数点がつけられている。

以上のとおり、分館活動のための分りやすい実地的な「手引き」であり、他市町村の分館運営にも役立つ資料である。B5判 33ページ 県内公民館関係者で、関心のあるむきは、小千谷市公民館(電話 〇二五八—八二一九—)へ直接照会されたい。

長岡市中央公民館社会教育指導員

金山 茂氏(60歳)

四月、異動期に見られる人事風景があった。一見まだ現役校長さんと思われる金山先生が「おはようございます」といって入ってこられた。先生は、早速、近藤館長さんと談笑しておられた。

ご両人とも少年期南魚六日町で過ごされたとのことでのその当時の町の様子など思い出話に花が咲いていた。



先生は「もう退職したのだから、先生より」

素顔 拝見

栃尾市中央公民館主事

金内 保氏(33歳)

市の税務課・市民課に十五年勤務し、今年をはじめ公民館の仕事をする事になった中。

「何しろ始めてのことばかりで面くらっています」といながらも、インタビュウの合間に入ってくる市民からの電話の応答はてきぱきしていて実に堂々たるもの。これが、まだ一か月の実務経験しかない人の応答かと驚かさされた次第。

それもその筈と納得がいったのは、昨年までは公民館利用者の立場から、成人講座の受講者

ん「付けで呼んでほしい。」と言われたが、人生の先輩であり、教師一筋に生きてこられた方なので皆んな「先生」とお呼びしている。又、人間相互の共感的理解とは共汗的理解に徹することだと言われ、私達と一緒に活動しておられる。酒は強い方であり、趣味も豊かのように見受けられた。館報「柳友」にスケッチを入れたり、筆字を頼むと心よく書いてくださる。楽しそうに仕事をされておられる姿は見習いたいものがある。

(長岡市中央公民館 田中 仁記)

として、そのうえ、受講者代表のリーダーとして活躍された方



だったと聞く。まことに心強い人が入ってきたものだ。今、心配なことは？と尋ねると、「住民に直接接するわけなので、人間性を問われるのではないかと恐ろしい気持です。また、常に評価されているので、常々「おねえ」とこれも不安の材料とおっしゃる。それでいて顔は明るくやる気に満ちているのが印象的だった。

(上村記)

分館運営の手引き

地域に根ざした公民館の活動を進めるに当たり、分館の果たす役割はまことに大きいものがある。



小千谷市公民館

分館の役割、本館との機能連

県事業紹介

社会教育課

家庭教育指導者研究協議会参加案内

家庭教育学級は、高齢者学級や婦人学級などと共に公民館が実施する学級・講座の中では普及している部類のもの。県の集計によれば、昭和六十二年度中に四九三学級が開設されたという。

このように学級・講座の盛況にもかかわらず、今日の家庭教育に対する課題はなお多い。したがって家庭教育学級のあり方も見直しがせまられていると言つてよいだろう。

このような観点から、県社会教育課では、次のような日程で、県下四地区で「家庭教育指導者研究協議会」を開催する。

市町村の社会教育主事・公民館主事・学級の代表者の派遣をすすめて、学級のより一層の充実を図りたい。

なお、開催要項は、各教育事務所を通じて市町村教育委員会に通知されているので参照され、ふるって参加されるようおすすめる。

一、期日・会場

研究協議
三〇〇、四一五 研究協議
二〇〇、二〇〇 問題提起と

三、研究協議と部会

・主題「子供の自立を促す親のかかわり」

・部会
1. 家庭・地域・学校が共に進むための家庭教育学級の運営
2. 子供が自ら考え、実行するよう家庭環境とは
3. 思春期の子供の生活の特徴と親のかかわり方

二、日程
・九〇〇、九〇〇 受付・開会式
・一〇〇〇、二〇〇 問題提起と

あとがき

◇特集「イベントを成功させよう」の文末に、筆者見原健司氏は「異論反論大歓迎!」と書いています。

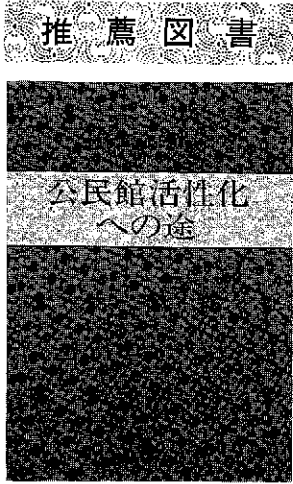
これは、あえて物議を醸そうというのではなく、青年団体の活性化に苦心している県下公民館の仲間と(初任者のみにこだわらずに)、情報や意見の交流を求めてのことと思います。

本紙をそのような交流の場として大いに活用してください。◇館報等のご惠贈お礼

公民館活性化への途

生涯学習時代に対応する
公民館をめざして

編著者 岡本 包治 元木 健
坂本 登 日常出版



地域社会教育の中核たる学習需要の把握に的施設として自他とも焦点をあて、第三章でに許してきた公民館には、公民館の活性化のついて、近年地盤沈下観点と方法について述がささやかれ、そのあり方が問われている。第一本書は、公民館をめぐるこれらの状況を克服めとして、活性化へ向服し、その活性化を図けることを意図して、いくつもの新たな視点から論述された、今日的な要求に代しての必読の書である。

第一章では、多様な教育機関と機会を視野に入れ、それぞれの教育機能を明らかにしてある。第二章では、公民館の基本的姿勢に

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市川端町2-9・県林業会館内】
【電話・新潟 (025) 224-6073】

発行人 会長 木下 清一

編集人 事務局長 上村 捨二郎
【定価1部 120円 年共 1,440円】

なじみ深い名前の公民館報がいつの間にか消えていて心残りを感じつつ、四・五月中にご意贈いただいた公民館報や刊行物の名前だけ紹介しお礼にかえさせていただきます。

○館報雪国(湯沢町公民館) ○公民館報さんぼく(小須戸公民館報) ○館報ほりのうち(新生(入広瀬村公民館)) ○公民館報守門(しおざわ)出雲崎公民館だより・スポーツ出雲崎。

刊行物○学びあう仲間○ネットワイク時代の地域づくり○どんぐりコロコロ(以上新潟市公民館) ○つくし18号(分館運営の手引き(以上小千谷市公民館)) ○わたしたちの学習(炎) ○旬集(花) 第八集(以上十日町市公民館) ○横糸と縦糸(柏崎市大洲公民館) ○やまなみ(牧村公民館) (上村)